

令和元年度（2019年度）第2回南区まちづくり懇話会 会議録

1 日時 令和元年（2019年）8月8日（木）午前9時半～11時半まで

2 場所 南区役所3階大会議室

3 出席者 計62名

(1) 南区まちづくり懇話会委員 16名

前出委員、榊田委員、吉本委員、山室委員、平井委員（副会長）、村山委員、
正木委員、島田委員、永井委員、村田委員、堀川委員、土井委員、栗田委員、
柴田委員（会長）、北岡委員、宮崎委員

(2) 南区管内中学校中学生 23名（＝3名×7校＋2名×1校）

(3) 熊本県立大学大学生・大学院生 6名

(4) 熊本市職員 17名

南区長、区民部長、保健福祉部長、総務企画課長、南区管内まちづくりセンター所
長（5名）、地域担当職員（3名）、総務企画課職員（5名）

4 配布資料

(1) タイムテーブル

(2) 南区のまちづくりについて

5 内容

(1) 開会

(2) 区長挨拶

(3) 職員紹介

(4) 南区のまちづくりについて

(5) ワークショップ説明

(6) アイスブレイク

(7) ワークショップ

① 自己紹介

② 熊本地震で経験したこと・感じたことについて

③ 「20年後に残したい南区のたからもの」

④ 発表

(8) 講評

(9) 写真撮影

(10) 閉会

6 議事録

(1) 区長挨拶

南区長 厳しい暑さが続く中、また、夏休み中にもかかわらず、この『中学生・南区まちづくり懇話会』ワークショップに参加いただき感謝している。

 このワークショップは、南区の魅力・特性を生かしたまちづくりを進めるにあたり、区民の皆さんの意見や提案をいただき、それをまちづくりに反映させることを目的に、平成二十四年度から開催しているもの。

 本日は、南区まちづくりビジョンの六つの基本目標をテーマに、『南区まちづくり懇話会』の委員の皆さんと一緒に、南区の魅力について、いろいろとお話していただければと思う。

 中学生の皆さんには、慣れない場所で「まちづくり」をテーマに話し合いをすることは、少し戸惑われるかもしれないが、あまり堅苦しく考えず、自分たちの住んでいるところで、普段感じていることや気づいたことなどを率直に話してもらえれば。その皆さんの言葉から、南区の魅力を生かすキーワードがきっと生まれてくると思う。

 最後にこのワークショップを通して、少しでも自分の住む地域やこの南区に関心を持っていただけたら幸いに思う。

(2) 南区のまちづくりについて

事務局 (別添資料「南区のまちづくりについて」に沿って説明)

(3) ワークショップ説明

柴田会長 ワークショップとは、「たくさんの人たちが集まってひとつのことについての解決を目指す共同作業のこと」を意味する。南区の15歳未満の年少人口は16.1%と5区の中で断トツ高くなっており、まちづくりを進めていく上で中学生の方々の意見をぜひ伺いたいということで今回のワークショップを開催した。

 今日のワークショップはワールドカフェ方式となっている。ワールドカフェ方式とは、7～8人のテーブルに分かれて話し合いを行い、世界のカフェを巡るようなイメージで、いろんなテーブルに移動して、いろんなメンバーでその都度話し合いを行う手法。

 今日は「南区まちづくりビジョン」の6つの基本目標のテーマごとにテーブルを用意している。受付の際にくじを引いたかと思うが、そのくじに計3回分のテーマが記載してある。テーマごとの「20年後に残したい南区のたか

らもの」について、計3回テーブルを移動しながら話し合いを行ってもらった後に、最初のテーブルに戻り、テーマごとの「南区のイチオシ」を決めてもらう。そしてそのイチオシを20年後に残すためには今何ができるかを考えていただき、その内容を発表してもらう。各テーブルから中学生1名と南区まちづくり懇話会委員1名ずつ代表者を出してもらい発表してもらう。また南区まちづくりビジョンには6つの基本目標の他に重点目標として「復興するまち」がある。ワークショップの冒頭で、3年前に起きた熊本地震で経験したこと・感じたことについて話し合いをしていただく。

(4) ワークショップ

柴田会長 <熊本地震で経験したこと・感じたことについて(10分)>

柴田会長 <「20年後に南区に残したい南区のたからもの」(40分)>

<発表>

柴田会長 では健康班から発表していただく。

健康 班 イチオシのたからものは、ラジオ体操・ウォーキング大会・地域のイベントの3つ。
地域との交流にもなり、生活のリズムが整う。そして誰にでもでき、あまりお金もかからない。
それを20年後に残すために出来ることは、地域主催のイベントなどに積極的に参加すること。生徒会や学校が地域に入っていく、取組みを次の世代に継承させていくこと。夏休み期間などの子どもでも参加しやすい長い休みの間に実施することなどの意見が出た。

前出委員 働き方改革の関係で、主体として学校はなるべくやらない方向になっていくと思う。体協やPTAが主体となってやっていかなければならないと思う。

子ども 班 イチオシのたからものは、小中学校での米作りなどの農業体験や地域の人と関わりが持てる地域の祭り。そして歴史を感じられる富合の六殿神社。それを20年後に残すためには、地域で開催されるお祭りなどの行事に積極的に参加すること。また、ポスターを作成したり映像を使った宣伝を行うことで、イベントのPRにもつながり、イベントに興味を持ってくれる人を増やすことができる。そういった取組みを継続して行うことで、イベントに参

加していた若い世代に伝統行事を引き継ぐことができるのではないかと考えた。

堀川委員 子供たちが地域の方の力を感じているなど実感した。いろんな行事を残すために、周りの方たちを呼び込み頑張りたいと思った。

安全・
安心班 イチオシのたからものは、登下校時や夜のパトロールをしてくれる地域の方や、防犯・防災などの自治会活動です。
それを20年後に残すために今できることは、あいさつ運動の推進や大人トークフォークダンス（大人と子供がが対一となってお題に基づいて語り合うもの）を開催すること。また、自治会単位での行事・イベントに積極的に参加することが大事だと考えた。

土井委員 パトロールをされる方が減ってきていると思うが、子供たちがパトロールの方たちに感謝をしていること。また20年後に残すために子供と一緒に子供が考えること。すごく素晴らしいことだと思った。20年後にも残すために地域の繋がりが一番だと話していたので、自分もそれを意識して地域活動を頑張っていきたいと思う。

自然 班 イチオシのたからものは、田んぼや地下水などの綺麗な水、学校内の清掃活動や花いっぱい運動、そして親子での清掃や水やりなど。地域固有のたからものとしては、イチョウの木や桜並木、カヌー体験などが挙げられた。
これを20年後に残すために今できることは、学校内の清掃活動等を次の世代に引き継いでいき、今やっている取組みを継続していくこと。また地域の活動に積極的に参加することが重要だと思った。

永井委員 地域の活動に参加して、体感・体験することで色んな活動の大事さを気付いてもらうというのが、持続・継続につながっていくのかなと思う。

歴史・
文化 班 イチオシのたからものは、地域や神社の祭りという意見が出た。その中でも地域ごとに行われる小さい祭りに着目して考えた。どんどややあげたかな、もぐら打ち、そして子供相撲が挙げられた。
それを20年後にも残すためには、語り部から話を聞いたり、年配の方との交流を通して継続していくこと。また若い世代に参加してもらうために、学校で生徒会などが中心となって地域行事への参加を呼び掛けていくことで、興味を持つきっかけをつくるのではないかなと思う。

山室委員 大きな祭りは結構知っていたが、小さな祭りがいっぱいあることを知ることができた。大事なのは世代間交流なのでは。若い世代が多いので先輩方から話を聞いて世代間交流を深めて、引き継いでいくことが必要だと思う。地域の名前、例えば「力合」について語れる語り部さんの存在を若い世代に引き継いでいくことが大事なのかと思った。

農業・
漁業 班 イチオシのたからものは、ひごまるデー。ひごまるデーとは、中学校で月に1回、熊本産の野菜などを使ったメニューが出されるもので、ひごまるデーがあることで、地産地消に繋がっている。また学校で田植えなどの農業体験も出来るのではないかと思った。
それを20年後に残すために今できることは、南区産のトマトやナスを食べるということ。給食で出てくる夏野菜カレーや蓮根サラダなどの南区産の野菜を食べることを通じて、野菜のおいしさに触れて、野菜に興味を持つ人が増えるのではないか。また、興味を持つ人が増えることによって、農業の後継者が増えていくのではないかと思う。

正木委員 若い子たちは農業に関心がないのかなと思っていたが、食べることを通じて関心を持っているんだと感心した。食べることによって、健康にもつながっていくので、これからも取り組んでいけたらと思う。

(5) 講評

柴田会長 短い時間でしたが、沢山の意見を出していただいた。
今出てきた意見をまとめると、ラジオ体操やウォーキング、農業体験、パトロール、清掃活動、地域ごとの祭り、そしてひごまるデー。
発表を聞いていて分かったと思うが、テーマごとにテーブルを分けて考えてもらっていたが、実は同じようなことをそれぞれのテーブルで考えてもらっていた。例えば、子ども班で出てきた地域の祭りや農業体験という言葉は違う班でも出てきた。それらの活動を通じて世代間交流ができ地域の理解にも繋がる。そして地域で暮らしていく安全・安心にも繋がるのではないかと思う。ひごまるデーは食べることを通じて農業を理解することも出来る。
一つ一つを考えてもらうことも重要だが、それは色んなことと繋がっている。しかも身近な生活の中、学校の色んな行事とも繋がっているということを理解してもらえればと思う。